

競 技 注 意 事 項

- 1 (1) 本大会に適用する規則は、2026 年度日本陸上競技連盟競技規則及び大会規定である。
(2) WA 承認シューズリストの確認を行い、本大会へ参加すること。ただし、サークルから行う種目についてはシューズ規程を除外する。
- 2 練習について
(1) 練習は補助競技場（サブトラック）を使用すること。但し、投てき練習は一切禁止する。
フィールド種目の練習は、招集完了後、競技役員の指示により競技場内で行う。
(2) 本競技場内での朝の練習時間は、開門から放送等で指示された時間までとする。
- 3 招集について
(1) 招集所はバックスタンド南側サブトラックへの通路に設ける。
(2) 各種目の招集開始時刻・招集完了時刻はその競技の開始時刻を基準とする。

	招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技	競技開始 3 0 分前	競技開始 2 0 分前
フィールド競技	競技開始 4 0 分前 (棒高跳のみ 7 0 分前)	競技開始 3 0 分前 (棒高跳のみ 6 0 分前)

- (3) 招集の手順
① 招集開始時刻に招集所で競技者係に点呼を受け、その際アスリートビブス・腰ナンバーカード・スパイク・シューズ等の点検を受ける。(腰ナンバーカードは各校で用意する。なお 1500m 以上の種目は招集の時に競技者係から別ナンバーカードが配られる。)
② 最終点呼の代理人は認めない。ただし、2 種目を同時に兼ねて出場する競技者は、あらかじめ本人が最初の競技の点呼の際に競技者係に申し出ること。
③ 招集完了時刻に遅れた競技者は出場できない。
④ オーダー用紙は競技者係(招集所)に提出すること。(招集完了時刻の 2 時間前から 1 時間前までに)
⑤ 混成競技については、1 日目第一種目、2 日第一種目と最終種目は招集所で点呼を受ける。他の種目は現地集合(競技開始 20 分前)とする。
- 4 アスリートビブスは胸部・背部ともにしっかりと付けること。腰ナンバーは定められたレーンの番号布を右腰やや後部に付けること。
- 5 競技について
(1) レーン、試技はプログラムの記載の番号順とする。決勝の組合わせはすべて番組編成員が公平に抽選して招集場に掲示する。
(2) 走高跳、棒高跳のバーの上げ方は、下記のとおりとする。
 (走高跳) 男子：1m40(練習)1m45－1m50－1m55…1m75 以降 3cm きざみ
 女子：1m20(練習)1m25－1m30－1m35…1m45 以降 3cm きざみ
 (混成走高跳) 男子：1m30(練習)1m35－1m40－1m45…1m65 以降 3cm きざみ
 女子：1m10(練習)1m15－1m20－1m25…1m40 以降 3cm きざみ
 (棒高跳) 男子：2m50(練習)2m60－2m80－3m00…3m20 以降 10cm きざみ
 女子：1m90(練習)2m00－2m10－2m20…3m00 10cm きざみ
- 6 競技用具について
(1) 棒高跳用ポール、やり以外の競技用具は競技場備え付けのものを使用する。
(2) 棒高跳用ポールは自己ものを使用する。
(3) やりは競技場備え付けのものを用意するが、検査を受けて自己のやりを使用してもよい。その際の検査場所は競技場南器具庫前で行う。検査時間は、競技開始 1 時間 3 0 分前から 1 0 分間行う。
- 7 その他
(1) 各種目 3 位までの入賞者は表彰状を本部まで取りに来てください。(種目別表彰は行わない)
(2) 競技中、競技区域内に携帯電話・スマートフォン・タブレット等を持ち込むことはできない。競技区域内で助力を与えたり受けたりしている競技者は失格の対象となる。
(3) 競技区域内に折りたたみ椅子、大型クーラーボックス等、競技運営や他の競技者に支障をきたす恐れのある物を持ち込むことはできない。競技区域内で傘の使用は認めるが競技役員の指示に従うこと。
(4) 一眼レフ・ビデオカメラ等で撮影する場合は、各校の顧問印のある許可証が必要。
(5) 投てき練習は、審判員の指示により競技場内で行うこと。
(6) 貴重品は各校各自で管理し、盗難には十分に注意すること。
(7) 各学校の使用した場所は清掃に努め、ゴミは各自持ち帰りとする。
(8) 選手は更衣室の滞在を短時間にすること。